

農商工連携の現状確認

千歳 北原電牧工場を訪問

【千歳】新藤義孝経済産業副大臣が二十五日、北原電牧（札幌）の千歳工場（市内北信濃）を訪問し、北原慎一郎社長から酪農業のIT（情報技術）化などについて説明を聞いた。経済産業、農林水産両省が支援する地域活性化の取り組み「農商工連携」の現状を確認し、今後の普及策づくりに役立てる狙い。

（中島光信）

北原電牧は牧柵など酪農関係施設の製造を手がけ、特に、乳牛の

体調にに応じて餌を与える自動給餌システムは両省の「農商工連携88

選」に選ばれている。北原社長は、個々の牛のデータベースと給餌システムをIT技術で連携させた結果、給餌作業時間が大幅短縮された一方、一頭当たりの生産量がアップした実績を報告。「酪農経営者が子どもと過ごす時間を増やせるなど、生活が改善される」と効果を説明した。

新藤副大臣は「酪農経営に夢を与える、温かい気持ちでの開発だ」と印象を語り、「経産省としても新しい仕事をさらに応援し、農



自動給餌システムの生産ラインで、北原社長（左）から説明を受ける新藤副大臣（中央）